

令和元年度 音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略: 施策推進管理評価調書

基本目標	施策	施策の内容	R元年度 評価	H30年度 評価	担当課	個表 掲載頁
1 本町の強みを活かした産業を振興し、雇用の場を拡充する 【雇用の場の拡充】	(1) ゆるぎない農業経営と生産環境	・後継者を育成、確保するため、研修の開催や活動、交流を支援します。 ・農業労働力を確保する支援体制をより利用しやすいようにします。	4	4	農政課	2
	(2) 本町の強みを活かした産業の振興	・IC工業団地拡張への取り組みを進めます。 ・雇用の拡大が伴う企業の誘致に努めます。 ・新事業の創出を目的とした異業種間の交流や農工商観連携を進めます。	4	4	企画課 商工観光課 産業連携課	3
2 音更の魅力で人を呼び込む、呼び戻す 【移住・定住の促進、交流の拡大】	(1) 観光による交流人口の拡大	・観光客の利便性向上のため、道央圏や道東圏などを結ぶ二次交通や地域内移動などの充実に努めます。 ・国際化、広域化に対応した観光客受入環境整備とサービス・企画などの充実、他地域との連携による新たな広域観光ルートの形成を進めます。 ・農畜産物や地場産品などの販売及び音更の食、農業をPRする機会を増やすため、新たに魅力を発信する拠点づくりに努めます。 ・高速道路ネットワークとのアクセス強化をはかるため、スマートインターチェンジやこれと主要幹線を結ぶアクセス路の設置を関係機関に要請します。	5	5	企画課 商工観光課 産業連携課 都市計画課 スポーツ課	4
	(2) 移住や定住の促進	・多様化、高度化する情報通信手段に対応するため、通信基盤の整備を検討します。 ・空き地・空き家の現状を把握し、利用可能な空き地・空き家の有効活用をはかります。 ・関係機関と連携し、介護人材の育成などの支援を行うとともに、介護サービスの質の確保と安定的な介護サービスの提供に努めます。 ・豊かな自然や都市の利便性、モール温泉など、本町の魅力発信に努めます。 ・北海道移住促進協議会や十勝圏複合事務組合等と連携し、移住希望者に対する情報発信や相談会などの事業を進めます。	4	4	企画課 商工観光課 子ども福祉課 都市計画課 建築住宅課	5
3 若者が結婚し、安心して次の世代の子どもを産み育てたいという希望をかなえる 【結婚・子育て支援の充実】	(1) 結婚につながる出会いの場の創出	・若者の出会いの場の創出など、町内の関係機関と連携し、各種事業を進めます。	4	4	企画課	6
	(2) 出産と子育てを支援する環境づくり	・子育て世帯に向け民間賃貸住宅家賃補助事業を推進し、公営住宅を補完する住宅として民間賃貸住宅の活用をはかります。 ・確かな学力をはぐくむため、学習指導要領に基づき、個に応じたきめ細かな指導を展開します。また、チーム・ティーチングや、少人数による教育を推進します。 ・安心して子育てができる環境の整備や情報の発信に努めます。 ・学童保育所の運営委託とともに計画的な受入体制と施設整備を進めます。 ・低所得者世帯に対し、各種福祉制度などによる助成や負担の軽減に努めます。 ・仕事と家庭の調和(ワーク・ライフ・バランス)の普及・浸透や家庭生活への男女共同参画を促進し、男女がともに働くための環境整備に努めます。	5	5	企画課 子ども福祉課 学校教育課 建築住宅課	7
4 音更に住み続けたい、住んでみたいと思える環境を整備する 【安全・安心な地域づくり】	(1) 老後も不安が生じない生活環境づくり	・市街地では、コミュニティバスの利便性の向上に努めます。 ・農村部では、スクールバスの混乗利用や他の方策も検討し、利便性の向上に努めます。 ・地域生活バス路線の確保に努めます。 ・認知症高齢者などが住み慣れた地域で暮らせるよう、地域密着型サービス基盤の整備を進めます。 ・保健・医療・福祉・介護の連携体制を充実させます。 ・地域主体の協働のまちづくりを促進するため、地域が自主的に行う環境整備活動や地域福祉活動などを支援します。	5	5	企画課 広報広聴課 高齢者福祉課	8
	(2) 安全・安心なまちづくりの推進	・地産地消や食育の視点から、関連する取り組みを進めます。 ・災害物資や防災救助品を充実させるとともに、その保管場所の整備をはかります。 ・自主的な防災活動を全町に普及させるため、自主防災組織などの育成に努めるとともに、避難行動要支援者の把握と情報提供をはかります。 ・国道241号(音更大通)の交通事故対策事業及び無電柱化事業の早期完成を関係機関に要請します。	5	5	企画課 広報広聴課 情報・防災課 産業連携課 都市計画課	9
5 十勝圏域としての魅力を高め、広域連携を推進する 【広域連携の推進】	(1) 周辺市町村との連携の推進	・現在進めている各分野での共同事業を円滑に進め、連携を強化します。 ・広域的な行政課題に対し、関連市町村と連携した取り組みを進めます。	5	5	企画課 商工観光課	10
施策の推進状況評価の平均			4.56	4.56		

評価区分	A 順調に進んでいる (4.50~5.00)	A
	B 概ね順調に進んでいる (4.00~4.49)	
	C 推進が必要 (3.00~3.99)	
	D 更なる推進が必要 (0~2.99)	

推進状況	<p>令和元年度の推進状況は、「順調に進んでいる」となった。雇用の場の拡充では、IC工業団地において1件の新規立地企業数があったほか、目標指標の雇用者数を達成した。移住・定住では、道内外から6件13名の実績があり、平成29年度以降マイナスが続いていた社会増(転入超過)の人数についてもプラスへと転じた。交流拡大の面では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、NHK連続テレビ小説「なつぞら」による十勝の認知度向上や関係団体が行ったプロモーション活動、さらには各種事業の実施により、観光入込客数の減少を最小限に抑えられ、概ね目標数値の水準にまで達した。また、安全・安心な地域づくりとして、農村地域を対象とした乗合タクシーの本運行を開始したが、初年度から想定を上回る利用状況となった。その他の施策についても、順調又は概ね順調に進められており、本町としての人口減少対策を進めている。今後はコロナの状況により、事業実施の縮小を余儀なくされるケースが見込まれるものの、どのような状況下であっても、各種施策を停滞させないよう、関係団体との緊密な連携の下、職員一丸となってこの困難に立ち向かっていく体制を構築する必要がある。</p>	評価結果	令和3年1月22日開催の第7回音更町総合計画審議会において、自己評価のとおり承認された。
------	---	------	--

■音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略:推進管理評価調書【施策(個表)】

基本目標	1 本町の強みを活かした産業を振興し、雇用の場を拡充する【雇用の場の拡充】
------	---------------------------------------

施策	(1)ゆるぎない農業経営と生産環境
----	-------------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標	新規就農者数	6年間(H27～R2)で67人	人	3	2	9	8	10	

●事務事業の実績

■重要業績評価指標(KPI)

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標	新規受入研修生数	6年間(H27～R2)で10人	人	0	1	1	0	2	

事務事業1		評価	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	事業概要										
事務事業名	農業後継者(新規就農者)確保対策事業	事業費実績	貢献度	3	3	3	3	3		【事業内容】 H27:28年度から始まる研修の準備期間である。主な取組内容は、新規就農希望者が集まるフェアへの参加やPR活動による研修生の募集、ビニールハウス等研修に必要な施設整備。 H28:研修生1名による基礎研修の実施、フェアへの参加やPR活動による研修生の募集 H29:研修生2名による基礎研修の実施、商業施設等での生産物販売、フェアへの参加やPR活動による研修生の募集 H30:研修生2名による基礎研修の実施、商業施設等での生産物販売、フェアへの参加やPR活動による研修生の募集 R元:研修生3名(基礎研修2名・実践研修1名)の実施	農政課
事業概要	新規就農等による農業後継者確保対策に必要な基礎研修の体制整備等		達成度	1	2	2	2	2			
成果名	新規受入研修生数		千円	15,000	4,241	9,089	8,299	9,213			
		成果数値	人	0	1	1	0	2			

評価基準 貢献度 3:大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2:貢献している(施策を推進する事務事業) 1:貢献していない
達成度 3:順調に進んでいる(80~100%) 2:一定程度進んでいる(50%~79%) 1:遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
H27年度	5	早急に推進するため総合戦略に位置づけた施策であることから、5評価とする。	3	研修生の受入施設をJA木野特産物センターに整備した。また、受入体制を構築するとともに、東京で開催された農業人フェア等に出展し、本町農業のPRを行った。これらの事業を実施したが、目標指標及びKPIが伸びていないことから、3評価とした。
H28年度	5	同上	4	H28年度は、研修生1名の受け入れを行い、H27年度に整備したJA木野特産物センターでハウス野菜の生産を中心とした研修を実施した。また、さらなる研修生の獲得を目指して農業人フェアに出展し、本町農業のPRを行った。このように、施策の推進が図られているが、新規受入研修生が目標の2名に届かなかったことから、4評価とした。
H29年度	5	同上	4	H29年度は新たな研修生1名が加わり、2名体制で基礎研修を行った。ハウス野菜の生産に必要な技術研修に加え、農業簿記、営農計画の作成等の座学研修の実施するとともに、商業施設等の協力を得て生産物の展示販売も実施し、農業経営に係る実践的な研修を行った。このように施策の推進が図られたが、新規受入研修生が目標の2名に届かなかったことから、4評価とした。
H30年度	5	同上	4	H30年度は引き続き2名体制で基礎研修を行った。ハウス野菜の生産に必要な技術研修に加え、農業簿記、営農計画の作成等の座学研修を実施するとともに、商業施設等の協力を得て生産物の展示販売も実施し、農業経営に係る実践的な研修を行った。また、このうち1名が基礎研修を卒業し、新規就農に向けた準備段階に入った。これらの取組を通じて施策の推進が図られたが、新規受入研修生が目標の2名に届かなかったことから、4評価とした。
R元年度	5	同上	4	R元年度は、2名(夫婦)の研修生1組が加わり、町内受入農家で農作業を通して農業を学ぶ基礎研修を開始し、農閑期には、関係機関の協力により座学を通して農業経営等学んだ。また、実践研修については、1名の研修生が町内の受入農家において就農後を想定した実践的な農作業に従事し、R2年4月に野菜農家として独立就農を果たした。これらの取組を通じて施策の推進が図られたが、KPIとのかい離があることから、4評価とした。
R2年度				
評価基準	5:重点及び早急に推進することが必要な施策 4:更なる推進が必要な施策 3:現状で推進する施策 2:現状においては推進に時間を要する施策 1:制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5:成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4:一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3:あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2:着手した程度(20%未満) 1:未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	新規就農者数は、前年度は8名で平成27年度からの延べ人数は32名となっている。また、農業後継者(新規就農者)確保対策事業は平成28年度から研修生の受け入れを開始して、令和元年度は新規受け入れが2名、現研修生1名が、新規就農に向けた実践研修を行った。
施策の課題	現施策の推進を通して、研修生に対する様々なフォローや実際の就農に向けた体制の構築を行うとともに、新規就農を果たした研修生の、安定的な経営に向けたフォローアップ体制の構築が必要である。
総合評価(施策の方向性)	新規受入研修生数は目標に届いていないが、受け入れた研修生に対しては、関係機関と協力し研修の内容を見直すなど、確実な独立就農に向けたプロセスの改善に努めている。今後は、独立就農した者へのフォローアップ体制の構築も進め、安定的に営農をバックアップしていく必要がある。

■音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略:推進管理評価調書【施策(個表)】

基本目標	1 本町の強みを活かした産業を振興し、雇用の場を拡充する【雇用の場の拡充】
------	---------------------------------------

施策	(2)本町の強みを活かした産業の振興
----	--------------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標	IC工業団地における雇用者数	797人(H26) → 850人(R2)	人	804	804	804	804	872	

●事務事業の実績

■重要業績評価指標(KPI)

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標1	IC工業団地における立地企業数(累計)	29社(H26)→35社(R2)	社	28	28	30	33	34	
指標2	IC工業団地の総面積	54ヘクタール(H26) →86ヘクタール(R2)	ヘクタール	54	54	54	54	54	
指標3	産業振興支援事業による助成件数	6年間(H27～R2)で18件	件	1	1	0	4	3	

事務事業1		単 位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	IC工業団地への企業誘致	評価	3	3	3	3	3		【H29年度】3件の新規企業立地と1件の撤退があった。	商工観光課
事業概要	土地開発公社による企業誘致	事業費実績	千円	2,106	-	-	-			
成果名	企業誘致数	成果数値	社	0	0	3	3	1		
事務事業2		単 位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	IC工業団地の拡張整備	評価	3	3	3	3	3			企画課 商工観光課
事業概要	現在のエリアを高速道路南側に拡張	事業費実績	千円	-	-	-	-			
成果名	IC工業団地の総面積	成果数値	ヘクタール	54	54	54	54	54		
事務事業3		単 位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	産業振興支援事業	評価	3	3	3	3	3		【H27年度】ホワイトショコラ(スイートコーン) 【H28年度】なたね油販売促進資材の作成 【H29年度】実績なし 【H30年度】やさいフリフリベジドッグ動物用飼料開発、ブロックリーめんイベント、中西宙生パンの試作開発、JA木野直売所研修会開催 【R元年度】ブロックリーめんイベント、シャイニングコーン(スイートコーン)のタグ作成、じゃがいもの段ボール作成	産業連携課
事業概要	六次産業化、起業等に対する支援	事業費実績	千円	980	350	0	1,670	690		
成果名	助成件数	成果数値	件	1	1	0	4	3		

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
H27年度	5	早急に推進するため総合戦略に位置づけた施策であることから、5評価とする。	3	工業団地の企業誘致は進められているが、結果的に分譲には至っていない。産業振興支援事業の助成件数も少ないことから、3評価とした。
H28年度	5	同上	4	新規企業の立地はなかったものの、既立地企業の増設に伴う1件2区画の貸付特約付分譲があり、施策の推進が図られた。しかし、産業振興支援事業の助成件数が少ないことから、4評価とした。
H29年度	5	同上	4	新規企業に対する分譲があったものの、産業振興支援事業の助成実績がないことから、4評価とした。
H30年度	5	同上	4	IC工業団地への企業誘致数や産業振興支援事業助成件数の実績はあったが、IC工業団地の拡張整備の実績がなかったことから、4評価とした。
R元年度	5	同上	4	同上
R2年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標のIC工業団地の総面積は前年度と同様になっているものの、IC工業団地における立地企業数は1社増加し、34社となっている。また、産業振興支援事業による助成件数は3件増加し、平成27年度からの合計は9件となっている。
施策の課題	雇用の場を拡充するためには、企業誘致の受け皿を整備する必要があるため、国との協議を早急に進め、IC工業団地の拡張を進める必要がある。
総合評価(施策の方向性)	IC工業団地の立地の優位性をPRして誘致活動を進めるとともに、その受け皿となるIC工業団地の拡張を進める必要がある。また、民間企業等に向けて産業振興支援事業を積極的にPRして、新商品の開発や新産業の創出を生み出す必要がある。

■音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略:推進管理評価調査【施策(個表)】

基本目標	2 音更の魅力で人を呼び込む、呼び戻す【移住・定住の促進、交流の拡大】
------	-------------------------------------

施策	(1)観光による交流人口の拡大
----	-----------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標	観光入込客数	1,402,500人(H26)→1,461,000人(R2)	人	1,403,900	1,370,600	1,543,400	1,493,700	1,419,400	

●事務事業の実績

■重要業績評価指標(KPI)

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標1	二次交通対策支援事業による宿泊数	毎年5,370泊(H27~R2)	泊	5,730	6,431	5,539	6,525	5,907	
指標2	訪日外国人観光客誘客強化事業による宿泊数	毎年9,000泊(H27~R2)	泊	9,505	9,158	2,812	31	-	
指標3	町内の魅力発信拠点数	2箇所(R2)	箇所	2	3	3	3	3	

事務事業1		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	二次交通対策支援事業	評価	3	3	3	3	3			
事業概要	駅や空港等の交通拠点と十勝川温泉を結ぶ2次交通の確保	事業費実績	千円	5,000	5,000	1,681	2,120	1,826	【事業内容】都市間バス利用者への特典付与、路線バスの無料化、無料送迎バスの運行、3町(音更町、池田町、広尾町)連携バスツアーの造成、十勝川温泉宿泊バスツアーの造成	商工観光課
成果名	本事業での延べ宿泊数	成果数値	泊	5,730	6,431	5,539	6,525	5,907		
事務事業2		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	訪日外国人観光客誘客強化事業	評価	3	3	3	3	3		【事業内容】海外プロモーションの実施、機内誌への広告掲載、団体バスの特典付与	
事業概要	外国人観光客の誘客を強化	事業費実績	千円	5,000	5,000	1,205	1,861	2,256	H29:事業費の減額により、団体バスの特典を利用した宿泊客数は減少したが、訪日外国人宿泊者の全体数は増加している。 H30:特典の内容変更(観光客へのクーポン券配布→団体バス運行費への補助)により、事業を活用した延べ宿泊者数の単純比較はできなくなっているものの、訪日外国人全体の宿泊者数は前年度並みの人数を維持している。 R元:事業内容が海外プロモーション(旅行博出展やセールスコール)に変更となり、本事業での延べ宿泊数の成果として単純比較できないものの、対象国であるタイからの外国人宿泊客延べ数は、新型コロナウイルス感染症の影響がないH31年4月～翌年1月までで対前年比133.7%と増加している。	商工観光課
成果名	本事業での延べ宿泊数	成果数値	泊	9,505	9,158	2,812	31	0		
事務事業3		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	魅力発信施設整備事業	評価	3	3	3	3	3		【成果目標内訳】道の駅おとふけ、十勝川温泉観光ガイドセンター、ガーデンスパ十勝川温泉(H28新規)	
事業概要	町の魅力を発信する施設の整備	事業費実績	千円	186	112	3,661	38,671	250,873	【事業内容】H27:全国道の駅連絡会総会(和歌山県)、道の駅先進地視察(伊達、ニセコ等) H28:全国道の駅連絡会総会(弟子屈町)、庁内検討会研修会 H29:全国道の駅連絡会総会(鳥取県)、農振除外手続きにかかる資料作成委託業務等 H30:町議会経済建設常任委員会による道の駅視察調査同行、道の駅整備事業者審査委員会の開催、魅力発信エリア事業検討支援測量調査等業務 R元:用地取得、基本計画、基本設計及び実施設計委託業務、造成工事など	産業連携課
成果名	町内の魅力発信拠点数	成果数値	箇所	2	3	3	3	3		
事務事業4		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	スマートインターチェンジ整備促進の要請	評価	3	3	3	3	3		【取組内容】	
事業概要	町村会等を通じた整備促進要請	事業費実績	千円	-	-	-	-	-	国土交通省、北海道開発局、北海道、帯広開発建設部、十勝総合振興局、国会議員等	都市計画課 企画課
成果名	要請実施回数	成果数値	回	6	6	6	6	6		
事務事業5		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	観光資源・食の高付加価値化による広域観光ルート創出・ブランド化事業	評価	-	3	3	3	3	3	【取組内容】	
事業概要	音更町と池田町の広域観光事業	事業費実績	千円	-	2,924	21,448	50,500	14,721	H28:観光資源開発マーケティング調査 H29:個人観光客動向調査、十勝川温泉におけるブドウ苗木植樹、特産品開発に向けたマーケティング調査、観光タクシー・BYO事業、人材育成、広告宣伝等 H30:町民観光意識調査、FIT実態調査、ブドウ畑の管理、特産品開発(試作品の試食等)、人材育成、観光タクシー、広告宣伝等 R元:ビッグデータを活用した訪日外国人分析調査、ブドウ畑の管理、共同特産品開発、新たな観光ルート開発及びプロモーション事業、人材育成、広告宣伝等	商工観光課 企画課
成果名①	音更町・池田町の観光入込客数	成果数値①	人	-	1,627,200	1,800,800	1,731,100	1,592,000		
成果名②	音更町・池田町の主要観光施設(ガーデンスパ十勝川温泉・ワイン城)の売上高	成果数値②	円	-	279,074,582	350,395,880	323,901,200	302,042,244		
事務事業6		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	十勝アウトドアブランディング事業	評価	-	3	3	3	3	3	【音更町の役割】	
事業概要	十勝アウトドアブランディングに関する調査	事業費実績	千円	-	60	-	-	-	各種調査への情報提供、各種協議への参加	商工観光課
成果名①	十勝管内宿泊客延べ数	成果数値①	万人	-	198	208	218	210	【取組内容】	
成果名②	十勝管内観光入込客数	成果数値②	万人	-	956	1,042	1,032	1,026	アウトドアブランディング事業に向けた調査、十勝アウトドアDMO設立に向けた調査	
成果名③	十勝管内アウトドア利用者数	成果数値③	人	-	30,800	41,500	40,200	41,700		
事務事業7		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	サッカー場整備による交流促進のまちづくり	評価	-	-	3	3	3	3	【H29年度】地方創生応援税制を活用して、各種サッカー大会が開催できる公式規格のサッカー場を整備し、4社から710万円の寄附を受けた。	
事業概要	サッカー場の改修工事、サッカー教室	事業費実績	千円	-	520,781	1,190	0	0	【H30年度】各種大会・練習により利用されたほか、サッカー教室を開催した。	スポーツ課
成果名①	サッカー場利用者数	成果数値①	人	-	-	32,224	-	40,044	【R元年度】各種大会・練習により利用された。	
成果名②	宿泊の増加数	成果数値②	泊	-	-	-	1,918	1,500		

評価基準 貢献度 3:大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2:貢献している(施策を推進する事務事業) 1:貢献していない
達成度 3:順調に進んでいる(80~100%) 2:一定程度進んでいる(50%~79%) 1:遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
H27年度	5	早急に推進するため総合戦略に位置づけた施策であることから、5評価とする。	5	二次交通対策、訪日外国人誘客事業ともに一定の成果を出しているとともに、他事業も協議等が進められていることから、5評価とした。
H28年度	5	同上	5	二次交通対策、訪日外国人誘客事業ともに一定の成果を出しているとともに、地方創生交付金を使って2つの事業を実施したことから、5評価とした。
H29年度	5	同上	5	二次交通対策、訪日外国人誘客事業ともに一定の成果を出しているとともに、他事業も協議等が進められていることから、5評価とした。
H30年度	5	同上	5	二次交通対策などが一定の成果を出しているとともに、新たな魅力発信拠点の整備に向けた各種の取組が進んでいることから、5評価とした。
R元年度	5	同上	5	二次交通対策などが一定の成果を出しているとともに、新たな魅力発信拠点の整備に向けて造成工事に着手したほか、平成30年度にオープンしたサッカー場についても積極的に利用されていることから、5評価とした。
R2年度				
評価基準	5:重点及び早急に推進することが必要な施策 4:更なる推進が必要な施策 3:現状で推進する施策 2:現状においては推進に時間を要する施策 1:制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5:成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4:一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3:あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2:着手した程度(20%未満) 1:未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	令和元年度の観光入込客数については、上半期はNHK連続テレビ小説「なつぞら」による十勝の認知度向上や関係団体が行ったプロモーション等により、周遊観光の効果もあって入込客数が増加し、前年度を上回ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により1月以降、入込客数が大幅に減少したため、通年では前年度を下回った。また、KPIの訪日外国人観光客誘客強化事業による宿泊数については、事業開始当初の広く外国人を対象とするクーポン券の配布に替えて、アジアの特定の地域等にターゲットを絞り込んだ海外プロモーションを行っている。このことから、変更後の事業内容と宿泊数の明確な因果関係を整理するのが困難であるため、実績値はなしとしているが、タイなど、ターゲットとしている国からの訪日外国人の宿泊者数増加に対しては、確実に寄与している状況である。町内の魅力発信拠点施設は、前年度と同様になっているが、新たな道の駅を含む魅力発信エリアの移転オープンに向けて、造成工事等に着手した。
施策の課題	現施策を推進していくが、観光については、十勝川温泉を核に、関係者、関係機関と協議・連携を図りながら各種施策を進めるとともに、新たな魅力発信拠点の整備に向けて、町民はもとより町外からも広く利用される施設となるよう、引き続き、事業者等との連携を図っていく。
総合評価(施策の方向性)	地方創生推進交付金を活用した観光客誘致事業をはじめ、交流人口を拡大するためのスマートインターチェンジの設置計画が確実に進められ、施策の推進が図られている。また、新たな魅力発信拠点の整備に当たっては、地方創生拠点整備交付金が採択されたことにより、懸念事項であった財政面での負担が一定程度解消されたため、今後も活用可能な財源を模索しながら、着実に整備を進めていく。

■音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略:推進管理評価調書【施策(個表)】

基本目標	2 音更の魅力で人を呼び込む、呼び戻す【移住・定住の促進、交流の拡大】
------	-------------------------------------

施策	(2)移住や定住の促進
----	-------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標	社会増(転入超過)の人数	42人(H26)→200人(R2)	人	▲91	61	▲171	▲266	9	

●事務事業の実績

■重要業績評価指標(KPI)

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標1	空き地・空き家情報の公開件数(累計)	60件(H26)→150件(R2)	件	73	76	86	89	95	
指標2	市街地・空き家バンクを卒業して十勝管内の高齢者施設等に就職する介護福祉士数	6年間(H27~R2)で140人	人	19	14	14	18	14	
指標3	十勝管外から音更町への移住件数	6年間(H27~R2)で50件	件	0	3	3	7	6	

事務事業1		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	テレワークや起業、移住を促す通信環境の整備	評価	貢献度 3	3	3	3	3	3		企画課
事業概要	市街地の光通信、農村部の無線による環境整備	達成度	3	3	3	3	3	3		
成果名	まちの通信環境整備エリアの割合	事業費実績	千円 1,120	1,120	1,120	1,120	1,131			
事務事業2		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	市街地の空き地、空き家等の活用	評価	貢献度 3	3	3	3	3	3	【内訳】 H27: 空き地 6件、空き家 8件 H28: 空き地 7件、空き家 4件 H29: 空き地 7件、空き家 2件 H30: 空き地 4件、空き家 2件 R元: 空き地 4件、空き家 5件	都市計画課 建築住宅課
事業概要	空き地・空き家バンクによる有効活用	達成度	3	3	3	3	3			
成果名	不動産取引成約件数	事業費実績	千円 -	-	-	-	-			
事務事業3		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	ふるさと介護福祉士育成支援事業 子どもの貧困対策事業	評価	貢献度 3	3	3	3	3	3	【就業者勤務地内訳】 H27: 音更町 4人、帯広市 7人、鹿追町 4人、清水町 1人、新得町 2人、芽室町 1人 H28: 音更町 4人、足寄町 1人、帯広市 4人、鹿追町 3人、士幌町 1人、幕別町 1人 H29: 音更町 6人、帯広市 4人、鹿追町 2人、士幌町 1人、大樹町 1人 H30: 音更町 4人、足寄町 1人、帯広市 5人、士幌町 1人、鹿追町 3人、新得町 2人、本別町 1人、幕別町 1人 R元: 音更町 4人、帯広市 2人、士幌町 3人、鹿追町 2人、幕別町 1人、芽室町 1人、大樹町 1人	企画課 子ども福祉課
事業概要	大谷短大介護福祉専攻に進学する学生へのサポート	達成度	3	3	3	3	3			
成果名	十勝管内施設への就職件数	事業費実績	千円 6,408	5,927	6,059	6,758	6,025			
事務事業4		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	移住、定住促進事業	評価	貢献度 3	3	3	3	3	3	【移住相談内訳】 H27: 一般相談 4件 H28: 一般相談 13件、移住フェア(東京会場) 13件 H29: 一般相談 10件、移住フェア(東京会場) 21件、(大阪会場) 25件 H30: 一般相談 20件、移住フェア(東京会場) 21件 R元: 一般相談 18件、移住フェア(東京会場) 30件、(大阪会場) 37件、(名古屋会場) 36件	企画課
事業概要	情報発信、移住相談等	達成度	2	3	3	3	3			
成果名①	移住相談件数	事業費実績	千円 -	-	-	-	-			
成果名②	移住件数	相談件数	4	26	56	41	121			
		移住件数	0	3	3	7	6			
事務事業5		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	クリエイティブ人材移住促進事業	評価	貢献度 -	3	3	3	3	3	【音更町の役割】 ウェブサイト掲載コンテンツへの情報提供 【取組内容】 マーケティング調査、Webサイト政策・運用等	企画課
事業概要	クリエイティブな人材をターゲットにした移住促進事業	達成度	-	3	3	3	3			
成果名	十勝管外から音更町への移住件数	事業費実績	千円 -	60	-	-	-			
事務事業6		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	十勝アクティブシニア移住交流促進事業	評価	貢献度 -	3	3	3	3	3	【取組内容】 移住フェアの参加、移住専門誌等への広告掲載、移住体験住宅、町のPR動画の作成	企画課
事業概要	活動的な高齢者をターゲットにした移住交流事業	達成度	-	3	3	3	3			
成果名①	移住相談件数(地方創生加速化交付金KPI)	事業費実績	千円 -	4,369	-	1,599	1,198			
成果名②	観光入込客数(地方創生推進交付金KPI)	成果数値①	件 -	26	56	41	121			
成果名③	社会増(転入超過)の人数(地方創生推進交付金KPI)	成果数値②	人 -	-	-	1,493,700	1,419,400			
事務事業7		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	UIJターン新規就業支援事業	評価	貢献度 -	-	-	-	3		R元: 年度内に1名の移住就業があったものの、移住就業者が本事業を通じて交付金を受給できるのは、就業してから3か月以上経過することが要件となっており、交付要件を満たしたのはR2年の4月以降となったため、成果数値は0人としている(R2年度実績として計上される)。	商工観光課
事業概要	東京圏からのUIJターンの促進及び地方の担い手不足解消	達成度	-	-	-	-	1			
成果名	本移住支援事業に基づく移住就業者数(地方創生推進交付金KPI)	事業費実績	千円 -	-	-	-	0			

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
H27年度	5	早急に推進するため総合戦略に位置づけた施策であることから、5評価とする。	3	各種事業を実施しているが、結果的に27年度は社会減となっていることから、3評価とした。
H28年度	5	同上	5	各種事業が順調に進んでいることに加え、地方創生交付金を使って2つの事業を実施したことや社会増の人数がプラスに転じたことから、5評価とした。
H29年度	5	同上	4	各種事業の実績値はある程度順調に推移しているが、結果的に29年度は社会減となっていることから、4評価とした。
H30年度	5	同上	4	各種事業の実績値はある程度順調に推移しているが、結果的に30年度も社会減となっていることから、4評価とした。
R元年度	5	同上	4	各種事業が順調に進んでいることに加え、地方創生推進交付金を活用した新たな事業である「UIJターン新規就業支援事業」を実施し、社会増の人数もプラスに転じたが、KPIとのかい離があることから、4評価とした。
R2年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の社会増(転入超過)の人数は、9人のプラスとなった。KPIの空き地・空き家情報の公開件数は、前年度から6件増加した。大谷短大を卒業し、管内に就職する介護福祉士については14名で平成27年度からの累計で79名となり、十勝管外からの移住件数の累計についても13件から19件へと増加した。
施策の課題	現施策を推進していくが、移住フェア等のイベントを活用した相談事業を強化して、道外の移住希望者に向けて音更町の魅力をPRする必要がある。
総合評価(施策の方向性)	令和元年度は、社会増(転入超過)の人数が、H28年度以来のプラスに転じた。移住、定住の促進のためには、雇用の場及び住宅の確保等、様々な要素が求められるため、様々な情報を提供し、引き続き施策を推進していく必要がある。

■音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略:推進管理評価調書【施策(個表)】

基本目標	3 若者が結婚し、安心して次の世代の子どもを産み育てたいという希望をかなえる【結婚・子育て支援の充実】	施策	(1)結婚につながる出会いの場の創出
------	---	----	--------------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標	出生数	6年間(H27～R2)で2,000人	人	343	306	322	286	259	

●事務事業の実績

■重要業績評価指標(KPI)

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標	カップリング数(～H30) 成婚数(R元～)	6年間(H27～R2)で50件	件	10	4	0	8	1	

事務事業1		評価	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	事業概要										
事務事業名	若者交流支援事業(～H30) 音更町・おびしんキュービット連携事業(R元～)	事業費実績	貢献度	3	3	3	3	3		【事業内容】 H27: 婚活イベント 2回、街コン 3回 H28: 婚活イベント 1回、街コン 1回 H29: 街コン 3回 H30: 婚活イベント 1回、街コン 1回 R元: 音更町・おびしんキュービット連携事業を通じて支援した成婚数1組	企画課
事業概要	街コンや婚活事業を通じて男女の出会いの場を創出するほか、帯広信用金庫が運営する結婚相談所と連携し、未婚者の結婚を勧奨する。		達成度	3	1	1	2	1			
成果名	カップリング数(～H30) 成婚数(R元～)		千円	2,426	996	953	700	50			
成果名	カップリング数(～H30) 成婚数(R元～)	成果数値	件	10	4	0	8	1			

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80～100%) 2: 一定程度進んでいる(50%～79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
H27年度	5	早急に推進するため総合戦略に位置づけた施策であることから、5評価とする。	4	若者交流支援事業は、一定の成果を出していることから、4評価とした。
H28年度	5	同上	4	独身男女の出会いの場を創出する取組として、若者交流支援事業は一定の成果を出していることから、4評価とした。
H29年度	5	同上	4	独身男女の出会いの場を創出する取組として、若者交流支援事業が定着してきており、目標指標である出生数も前年度を上回ったことから、4評価とした。
H30年度	5	同上	4	独身男女の出会いの場を創出する取組として、若者交流支援事業は一定の成果を出していることから、4評価とした。
R元年度	5	同上	4	町が民間事業者と連携して実施する新たな取組である音更町・おびしんキュービット連携事業が、成婚支援の実績へとつながったため、4評価とした。
R2年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4: 一定程度進んでいる(50～79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20～49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	令和元年度の出生数は259人で前年度の286人から減少し、累計で1,516名となっている。また、若者交流事業の後継的位置付けの取組として新規で実施した、音更町・おびしんキュービット連携事業を通じ、1組の男女の成婚を支援した。
施策の課題	若者交流支援事業については、民間事業者が実施する独身男女の出会いの場を創出するイベント等も増えてきていることから、事業内容の見直しが必要となっていた。このことを踏まえ、令和元年度からの新たな取組として、帯広信用金庫が運営する結婚相談所と連携し、未婚者の結婚を勧奨する、音更町・おびしんキュービット連携事業を実施したところ、一定の成果に結び付いた。
総合評価(施策の方向性)	施策の更なる推進のため、今後も民間事業者のノウハウや知見を積極的に活用するとともに、取組の連携を強化していく必要がある。

■音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略:推進管理評価調査【施策(個表)】

基本目標	3 若者が結婚し、安心して次の世代の子どもを産み育てたいという希望をかなえる【結婚・子育て支援の充実】
------	---

施策	(2) 出産と子育てを支援する環境づくり
----	----------------------

●事務事業の実績

■重要業績評価指標(KPI)

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標1	子育て環境や支援に係る町民の満足度	79%(H26)→82%(R2)	パーセント	80.7	80.1	78.6	78.9	81.6	
指標2	子育て世帯向け賃貸住宅新規入居戸数(累計)	6戸(H26)→50戸(R2)	戸	15	27	33	33	35	
指標3	少人数学級やチーム・ティーチングの実施に伴う教員数の増	5人(R2)	人	0	5	5	9	8	
指標4	生活の中で仕事と家庭の両方を優先する町民の割合	18%(H25)→30%(R2)	パーセント	18	18	18	18	14.9	

事務事業1		単 位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	子育て世帯向け賃貸住宅家賃補助事業	貢献度	3	3	3	3	3		【事業内容】 子育てに適した民間賃貸住宅を公営住宅の入居基準を満たす子育て世帯にあっせんし、一定期間(最長60ヶ月)家賃の一部を補助する。	建築住宅課
事業概要	公営住宅の補完として子育て世帯への家賃補助	事業費実績	千円	1,967	3,416	3,986	4,020	3,512		
成果名	新規入居者数(累計)	成果数値	戸	15	27	33	33	35		
事務事業2		単 位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	すくすくステーション整備事業	貢献度	3	3	3	3	3		【事業内容】 H27:授乳室の増設工事(1件)、授乳室の備品整備、子育て支援サイトの設計・構築 H28:授乳室の増設工事(1件)、授乳室の備品整備、子育て支援サイトの運営 H29:授乳室の増設工事(1件)、授乳室の備品整備、子育て支援サイトの運営 H30:授乳室の備品整備、子育て支援サイトの運営 R元:子育て支援サイトの運営	子ども福祉課
事業概要	公共施設への授乳室整備、子育て世帯への情報発信	事業費実績	千円	4,785	3,560	3,785	648	720		
成果名	住民意向調査における「子育ての環境や支援の満足度」	成果数値	パーセント	80.7	80.1	78.6	78.9	81.6		
事務事業3		単 位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	保育料軽減事業	貢献度	3	3	3	3	3		【事業内容】 H27: 広報紙及びホームページによる啓発、企業向けパンフレットの配布 H28: 広報紙及びホームページによる啓発、男女共同参画をテーマにした講演会の実施(講師:増岡弘) H29: 広報紙及びホームページによる啓発、男女共同参画をテーマにした講演会の実施(講師:阿部夕子)、図書館本館に男女共同参画コーナー設置 H30: 広報紙及びホームページによる啓発、男女共同参画をテーマにした講演会の実施(講師:阿部夕子)、図書館本館に男女共同参画コーナー設置し、シールアンケートを実施。 R元: 広報紙及びホームページによる啓発、SDGsの視点を取り入れた男女共同参画をテーマにした講演会の実施(講師:浜田敬子)、図書館本館及び帯広大谷短期大学附属図書館に男女共同参画コーナー設置し、シールアンケートを実施。	子ども福祉課
事業概要	低所得世帯等に対する保険料の減額	事業費実績	千円	16,093	10,440	12,006	11,146	9,522		
成果名	事業により軽減を受けた児童数	成果数値	人	392	391	389	421	412		
事務事業4		単 位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	男女共同参画推進事業	貢献度	3	3	3	3	3		【事業内容】 H27: 広報紙及びホームページによる啓発、企業向けパンフレットの配布 H28: 広報紙及びホームページによる啓発、男女共同参画をテーマにした講演会の実施(講師:増岡弘) H29: 広報紙及びホームページによる啓発、男女共同参画をテーマにした講演会の実施(講師:阿部夕子)、図書館本館に男女共同参画コーナー設置 H30: 広報紙及びホームページによる啓発、男女共同参画をテーマにした講演会の実施(講師:阿部夕子)、図書館本館に男女共同参画コーナー設置し、シールアンケートを実施。 R元: 広報紙及びホームページによる啓発、SDGsの視点を取り入れた男女共同参画をテーマにした講演会の実施(講師:浜田敬子)、図書館本館及び帯広大谷短期大学附属図書館に男女共同参画コーナー設置し、シールアンケートを実施。	企画課
事業概要	町民、事業所等への啓発活動など	事業費実績	千円	71	561	223	197	561		
成果名	男女が等しく社会参加できる環境づくりに対する町民の満足度	成果数値	パーセント	18	18	18	18	18.2		

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
H27年度	5	早急に推進するため総合戦略に位置づけた施策であることから、5評価とする。	5	地方創生交付金の活用などにより、各種事業を効果的に実施したことから、5評価とした。
H28年度	5	同上	5	子育て世帯向け賃貸住宅新規入居戸数が増加している等、施策の推進に向けて、各種事業を効果的に実施したことから5評価とした。
H29年度	5	同上	5	同上
H30年度	5	同上	5	子育て環境や支援に係る町民の満足度が向上したほか、少人数学級やチーム・ティーチングの実施に係る教員数が増加するなど、施策の推進に向けて各種事業を効果的に実施したことから、5評価とした。
R元年度	5	同上	5	子育て環境や支援に係る町民の満足度が更に向上したほか、子育て世帯向け賃貸住宅新規入居戸数が増加するなど、着実に施策の推進が図られていることから、5評価とした。
R2年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	生活の中で仕事と家庭の両方を優先する町民の割合については、前回の結果を下回っているものの、子育て環境や支援に係る町民の満足度は、平成27年度以降で最も高い結果となり、子育て世帯向け賃貸住宅新規入居戸数についても2件増加した。また、少人数学級やチーム・ティーチングについては、8名での実施体制となっており、依然として目標の5名を上回る高い水準である。
施策の課題	現施策を推進するが、潜在的なニーズを把握し、効果的な施策の実施に努める必要がある。
総合評価(施策の方向性)	各種事業の展開に伴う実績値は堅調に推移している。子育て支援は分野も広く、各部署、関係機関と連携して施策を推進する必要がある。

■音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略:推進管理評価調査【施策(個表)】

基本目標	4 音更に住み続けたい、住んでみたいと思える環境を整備する【安全・安心な地域づくり】
------	--

施策	(1) 老後も不安が生じない生活環境づくり
----	-----------------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標	町民の定住意向	90.6%(H26)→91%以上(R2)	パーセント	91.4	88.2	87.9	82.9	83.8	

●事務事業の実績

■重要業績評価指標(KPI)

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標1	地域生活バス路線数	16路線(H26)→16路線(R2)	路線	16	16	16	16	16	
指標2	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	2,959人(H26)→7,400人(R2)	人	3,901	4,676	5,642	6,407	7,228	

事務事業1			単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	公共交通確保対策事業	評価	貢献度	3	3	3	3	3		【事業費内訳】 H27:コミュニティバス運行事業費 11,578千円、路線バス維持対策補助金 25,415千円 H28:コミュニティバス運行事業費 12,934千円、路線バス維持対策補助金 12,128千円 H29:コミュニティバス運行事業費 11,238千円、路線バス維持対策補助金 20,722千円 H30:コミュニティバス運行事業費 11,539千円、路線バス維持対策補助金 29,535千円 R元:コミュニティバス運行事業費 11,870千円、路線バス維持対策補助金 23,976千円	企画課
事業概要	地域生活バス路線の確保、利便性の向上	事業費実績	千円	36,993	25,062	31,960	41,074	35,846			
成果名	バスの利用のしやすさに係る町民の満足度	成果数値	パーセント	63.7	65.9	67.1	66.4	64.7			
事務事業2			単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	認知症高齢者支援事業	評価	貢献度	3	3	3	3	3		【受講者数】 H27:サポーター 941人、キャラバンメイト 1人 H28:サポーター 766人、キャラバンメイト 9人 H29:サポーター 963人、キャラバンメイト 3人 H30:サポーター 764人、キャラバンメイト 1人 R元:サポーター 806人、キャラバンメイト 15人 合計:サポーター 7,132人、キャラバンメイト 96人	高齢者福祉課
事業概要	SOSネットワークなど	事業費実績	千円	68	91	297	200	75			
成果名	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	成果数値	人	3,901	4,676	5,642	6,407	7,228			
事務事業3			単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	潤いと思いやりの地域づくり事業	評価	貢献度	3	3	3	3	3		【事業内訳】 H29:地域福祉・安全事業 64件、地域交流事業 33件、地域環境美化事業 73件、地域緑化事業 48件、地域防災組織活動事業 59件、アダプト・プログラム事業 5件 H30:地域福祉・安全事業 58件、地域交流事業 32件、地域環境美化事業 76件、地域緑化事業 51件、地域防災組織活動事業 63件、アダプト・プログラム事業 5件 R元:地域福祉・安全事業 61件、地域交流事業 36件、地域環境美化事業 83件、地域緑化事業 47件、地域防災組織活動事業 61件、アダプト・プログラム事業 1件	広報広聴課
事業概要	地域が主体的に行う環境整備、地域福祉活動への支援	事業費実績	千円	12,418	14,563	11,204	10,278	12,041			
成果名	補助件数	成果数値	事業	285	295	282	285	289			

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
H27年度	5	早急に推進するため総合戦略に位置づけた施策であることから、5評価とする。	5	公共交通機関の維持確保、認知症対策、地域コミュニティの支援など、一定の事業を実施し、町民の定住意向も高まっていることから、5評価とした。
H28年度	5	同上	4	公共交通機関の維持確保、認知症対策、地域コミュニティの支援など、一定の事業を実施しているが、町民の定住意向は前年度から減少した。また、農村部における公共交通空白地域の解消に課題があることから、4評価とした。
H29年度	5	同上	5	前年度までに実施してきた事務事業の実績値が順調に推移していることに加え、農村地域における利用者の自宅と市街地の乗降可能場所間を運行する予約型の乗合タクシーを実証運行するなど、居住環境の向上に資する取組を行ったことから、5評価とした。
H30年度	5	同上	5	前年度までに実施してきた事務事業の実績値が順調に推移していることに加え、農村地域における利用者の自宅と市街地の乗降可能場所間を運行する予約型の乗合タクシーの本運行が決定するなど、居住環境の向上に資する取組を行ったことから、5評価とした。
R元年度	5	同上	5	事務事業の実績値が順調に推移していることに加え、R元年度から本運行を開始した農村地域の予約制乗合タクシーが、目標値(1便当たりの年間平均利用者数:1.6人)を達成するなど、施策の推進が図られていることから、5評価とした。
R2年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標である町民の定住意向は、前年度を上回る結果となった。KPIについては、地域生活バス路線数は前年度を維持し、認知症サポーター養成講座受講者数も前年度から大きく増加した。
施策の課題	今後も現施策を推進していくが、令和2年1月以降から、新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通の利用者数が落ち込んでいることを踏まえ、路線の縮小・廃止を招くことのないよう、本町のみならず十勝管内の自治体や事業者が丸となって交通課題を共有・解消していく仕組みづくりが必要となっている。
総合評価(施策の方向性)	町民の定住意向を高め、多くの人が音更に住みたいと思える環境を整備するため、公共交通、認知症対策、地域との結びつきを施策として位置づけている。老後も安心して暮らせる生活環境を築いていくためには、社会情勢を踏まえた柔軟な対応によって、着実に施策を推進していく必要がある。

■音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略:推進管理評価調査【施策(個表)】

基本目標	4 音更に住み続けたい、住んでみたいと思える環境を整備する【安全・安心な地域づくり】
------	--

施策	(2)安全・安心なまちづくりの推進
----	-------------------

●事務事業の実績

■重要業績評価指標(KPI)

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標1	自然災害など防災体制に対する町民の満足度	82%(H26)→82%(R2)	パーセント	82.1	79.3	71.9	75.4	78.1	
指標2	自主防災組織率	60%(H26)→70%(R2)	パーセント	63.5	66.8	75.5	77.2	78.7	

事務事業1		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	食育推進事業	貢献度	3	3	3	3	3		平成25年度から音更町食のモデル地域実行協議会を設立し、ふれあい交流館を事務局として第1次食育地産地消促進計画に基づき活動を展開している(29年度からは第2次計画に基づき活動)。	産業連携課
事業概要	食育・地産地消促進計画に基づく事業推進	達成度	3	3	3	3	3			
事業費実績	千円	1,860	1,225	1,245	1,852	1,632				
成果名	地産地消・食育の取組に係る町民の満足度	成果数値	パーセント	83.2	84.3	82.6	83.1	81.0		
事務事業2		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	防災備蓄品等整備事業	貢献度	3	3	3	3	3		【備蓄品の内容】 アルファ米、飲料水、粉ミルク、毛布、マット、紙おむつ、生理用品等	情報・防災課
事業概要	各防災拠点への備蓄品整備	達成度	3	3	3	3	3			
事業費実績	千円	9,756	16,788	16,497	11,109	12,091				
成果名	災害用備蓄品	成果数値	式	1	1	1	1	1		
事務事業3		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	潤いと思いやりの地域づくり事業(地域防災組織活動)	貢献度	3	3	3	3	3		【事業内訳】 H29:防災に関する広報等の作成、防災に関する研修会等の実施 8件 自主防災組織運営に対する支援 51件 H30:防災に関する広報等の作成、防災に関する研修会等の実施 13件 自主防災組織運営に対する支援 48件 自主防災組織設立準備に対する支援 2件 R元:防災に関する広報等10件、自主防災組織運営50件、自主防災組織設立1件	広報広聴課
事業概要	地域が主体的に行う防災活動への支援	達成度	3	3	3	3	3			
事業費実績	千円	1,031	1,518	1,412	1,894	1,993				
成果名	補助件数	成果数値	件	44	54	59	63	61		
事務事業4		単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	国道241号交通事故対策整備促進の要請	貢献度	3	3	3	3	3		【取組内容】 北海道開発局、北海道、帯広開発建設部、十勝総合振興局、国会議員等への要請	企画課 都市計画課
事業概要	町村会等を通じた要請活動	達成度	3	3	3	3	3			
事業費実績	千円	-	-	-	-	-				
成果名	要請実施回数	成果数値	回	5	5	5	5	5		

評価基準 貢献度 3:大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2:貢献している(施策を推進する事務事業) 1:貢献していない
達成度 3:順調に進んでいる(80~100%) 2:一定程度進んでいる(50%~79%) 1:遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
H27年度	5	早急に推進するため総合戦略に位置づけた施策であることから、5評価とする。	5	食育の推進や防災対策等各種事業を着実に進めているとともに、国道241号は交通事故対策及び無電柱化の事業化がなされたことから、5評価とした。
H28年度	5	同上	5	食育の推進や防災対策等各種事業を着実に進めているとともに、自主防災組織率が順調に伸びていることから、5評価とした。
H29年度	5	同上	5	同上
H30年度	5	同上	5	同上
R元年度	5	同上	5	同上
R2年度				
評価基準	5:重点及び早急に推進することが必要な施策 4:更なる推進が必要な施策 3:現状で推進する施策 2:現状においては推進に時間を要する施策 1:制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5:成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4:一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3:あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2:着手した程度(20%未満) 1:未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	KPIの自然災害など防災体制に対する町民の満足度は、前年度よりも2.7パーセント増加し、自主防災組織率についても1.5パーセント増加して87団体となった。
施策の課題	現施策を推進するが、今後はコロナ禍における避難所開設を見据えた備蓄や訓練についても対応を要するものと考えられる。また、国道241号交通事故対策事業については、早期完成を目指し、十勝管内自治体等と連携して関係機関へ働きかけていく必要がある。
総合評価(施策の方向性)	まちの定住意向を高めるための施策として、地産地消、防災対策、国道241号の交通混雑の解消を施策として位置づけている。安全・安心なまちづくりを推進し、多くの人が音更に住みたいと思える環境を整備するためには、これらの施策を着実に推進することが必要である

■音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略:推進管理評価調査【施策(個表)】

基本目標	5 十勝圏域としての魅力を高め、広域連携を推進する【広域連携の推進】
------	------------------------------------

施策	(1)周辺市町村との連携の推進
----	-----------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標	十勝管内の観光入込客数	967万人(H25)→1,020万人(R2)	万人	1,036	956	1,042	1,032	1,026	

●事務事業の実績

■重要業績評価指標(KPI)

区分	目標指標名	説明	単位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績
指標	他市町村と連携して新たに進める広域行政事業数	6年間(H27～R2)で8件	件	1	5	1	0	1	

事務事業1		単	位	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	十勝定住自立圏の推進	評	価	貢献度	3	3	3	3	3	第1期定住自立圏(H23～):19項目 第2期定住自立圏(H28～):24項目	企画課
事業概要	1市18町村による広域行政の推進	達	成	度	3	3	3	3	3		
成果名	取組項目数	成	果	数	19	24	24	24	24		
事務事業2		単	位	H27年度実績 <th>H28年度実績</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>R元年度実績</th> <th>R2年度実績</th> <th>特記事項</th> <th>担当課</th>	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	各種広域行政の推進	評	価	貢献度	3	3	3	3	3	【事業内訳】 とから広域消防事務組合、観光資源・食の高付加価値化による広域観光ルート創出・ブランド化事業、十勝アウトドアブランディング事業、十勝・イノベーション・エコシステム構築事業、クリエイティブ人材移住促進事業、十勝アクティブシニア移住交流促進事業、十勝川中流域かわまちづくり、UIターン新規就業支援事業(新規)	企画課
事業概要	他自治体と連携して進める広域行政事業	達	成	度	2	3	3	3	3		
成果名	新たに進める広域事業数	成	果	数	1	5	1	0	1		
事務事業3		単	位	H27年度実績 <th>H28年度実績</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>R元年度実績</th> <th>R2年度実績</th> <th>特記事項</th> <th>担当課</th>	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R元年度実績	R2年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	十勝・イノベーション・エコシステム構築事業	評	価	貢献度	-	3	3	3	3	【音更町の役割】 プログラムの周知による参加者の発掘等 【取組内容】 起業家等の人材育成など	企画課 商工観光課
事業概要	新たな事業創発を生み出すための取組	達	成	度	-	3	3	3	3		
成果名	創業者数(累計)	成	果	数	-	4	12	15	16		

評価基準 貢献度 3:大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2:貢献している(施策を推進する事務事業) 1:貢献していない
達成度 3:順調に進んでいる(80~100%) 2:一定程度進んでいる(50%~79%) 1:遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
H27年度	5	早急に推進するため総合戦略に位置づけた施策であることから、5評価とする。	4	十勝定住自立圏は、19の取組項目の推進と28年度からの第2期に向けての検討を行った。また、新たな広域行政は、28年4月からの消防広域化の取組を行ったことから、4評価とした。
H28年度	5	同上	5	十勝定住自立圏は2期目に入り、取組項目が第1期の19項目から24項目に増加した。また、新たな広域行政は、28年4月からの消防広域化の取組を行ったことや、国の地方創生関係の交付金を活用して、5つの広域連携事業を実施したことから、5評価とした。
H29年度	5	同上	5	前年度に実施した広域連携事業に加え、十勝川沿いに点在する観光施設の周辺を整備するとともに河川管理用通路等の整備を通じたアクセス性の向上を図る「十勝川中流域かわまちづくり」を推進するなどしたことから、5評価とした。
H30年度	5	同上	5	新規の広域事業はなかったが、28年度に地方創生加速化交付金を活用して実施した十勝アクティブシニア移住交流促進事業が地方創生推進交付金を活用して再実施したことや、目標指標が順調に推移していることから、5評価とした。
R元年度	5	同上	5	新規の広域事業として、UIターン新規就業支援事業に取り組み、道と連携しながら地方の担い手不足対策を行ったほか、地方創生推進交付金を活用し、十勝アクティブシニア移住交流促進事業等についても継続的に取り組み、目標指標を達成している状況であることから、5評価とした。
R2年度				
評価基準	5:重点及び早急に推進することが必要な施策 4:更なる推進が必要な施策 3:現状で推進する施策 2:現状においては推進に時間を要する施策 1:制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5:成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4:一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3:あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2:着手した程度(20%未満) 1:未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	新型コロナウイルス感染症の影響により、指標の十勝管内の観光入込客数が前年度と比較して減少したものの、NHK連続テレビ小説「なつぞら」による十勝の認知度向上や関係団体が行ったプロモーション活動、さらには各種事業の実施によって微減にとどまり、目標数値を達成することができた。
施策の課題	引き続き、地域における課題を他自治体等で共有し、広域的な取組が効果的である課題については連携して解決に向けて取り組んでいく必要がある。
総合評価(施策の方向性)	十勝管内では複合事務組合等による広域的な事務の共同処理が進められており、平成23年度からは、十勝全市町村において定住自立圏を構築し、その推進に努めている。今後も共通の課題に広域で取り組んでいくため、分野ごとの連携を強化するとともに、広域事業を推進する制度を検討していくことが必要である。